



写真3 各地の活動のパネル展示



写真4 ゲーム「オークライフ」に熱中！

今回の会議がよくあるシンポジウムと異なったのは、参加者全員が集まってお話を聞く時間が少なく、1日の大半を5つの分科会に使った点です。

私は、受付兼雑用の担当だったので各会場を時々回りましたが、真剣な表情で議論している会場、みんなで輪になってワイワイと楽しそうにワークショップを行っている会場など、それぞれの分科会が独自の企画で盛り上がっていました。

なかでも、「バリアフリーの里山目指して」の分科会では、会場を出て周りの里山に入り、視覚障害の方と一緒に里山体験を行うなど、緑豊かな中にある会場の特徴を存分に生かした企画を行っていました。

参加者が一つの分科会を選んで参加する方式でしたが、こんなに様々な分科会があると「あれにも参加してみたい、こっちも面白そう」と、選ぶのに困ったのではないのでしょうか。実際、当日に「分科会を変更したい」と言う方もいらっしゃり、受

付の私は、調整のために会場内を走り回ることもありました。

この日の参加者は、約200名。スタッフも合わせると、300名程の里山に関心のある人間が熱く盛り上がった1日でした。しかし、まだ終わりではありません。夜には懇親会でさらに盛り上がり、雑木林会議恒例の「朝まで討論会」が夜遅くまで続いていきました。

3日目 野外での里山活動

3日目。会場を六甲山の再度公園に移し、野外での様々な里山活動を体験しました。

この日は子供たちの参加も多く、いくつものコーナーが設けられた会場内では、楽しそうな笑い声や歓声が響いていました。やはり、食べ物があるコーナーは人気で、里山から

切り出したコナラで作った炭で焼いたパンはおいしかったです。手前味噌で恐縮ですが(有)コピス¹⁾製作のゲーム「オークライフ」を紹介・実演するコーナーもあり、迷子になった子の仲間が「オークライフ」に熱中していたという、笑えない逸話もありました。

以上が「第9回 全国雑木林会議 神戸大会」に実行委員として参加した報告です。

大会開催当日の3日間、いえ直前の準備も入れると、約1週間は慌ただしい日々でしたが、とっても充実した日々でした。終わりごろには疲れも出てきましたが、帰り際に参加者の方から「楽しかったですよ」と、声をかけていただくと、大変だったことや疲れもどこかへいってしまいます。こういう会議等に首を突っ込む機会も多く、きっかけも様々ですが、心の奥底では単にこの言葉を聞きたくてやっているのかも・・・。

(大阪支社長・浜田 拓)

1) 環境学習の企画・運営業務を行っている弊社関連会社。



写真5 野外での様々な活動を楽しむ